

サードプレイスとしての図書館

学類特集：応用理工学類

2022年度の全大会



サードプレイスとしての 図書館

大学図書館は、高等教育や学術研究活動を支える「学術情報基盤」としての役割を有している。筑波大学には筑波キャンパスに中央、体育・芸術、医学、図書館情報学、東京キャンパスに大塚の計5つの附属図書館がある。筑波大学の附属図書館にはそれぞれどんな特色があり、どのように活用されているのか。筑波大学附属図書館長と、筑波キャンパスにある4館取材した。(太田)



体芸図書館1階の吹き抜けスペース。お昼時と夕暮れ時には光が差し込み、幻想的な雰囲気演出する。

池田館長に聞く 図書館

附属図書館の特徴

附属図書館の魅力を探るべく、筑波大学附属図書館長である池田潤副学長（人文社会系）にお話を伺った。

筑波大学附属図書館は中央図書館と4つの専門図書館からなる。開学翌年の1974年に体育・芸術図書館、1978年に医学図書館、1979年の10月に中央図書館、1989年には東京キャンパスに大塚図書館が開館した。そして、2002年には図書館情報大学と合併し、図書館情報学図書館が加わった。全館共通の特徴は、所蔵している資料のほとんどを、自由に閲覧可能な書架に配置する全面開架式を採用し、学内の全ての本を附属図書館が一括管理している点である。100万冊以上の蔵書を抱える大規模大学では、このような蔵書管理方法は他に無く、日本の大学図書館の中でも存在感を示しているそうだ。

魅力ある附属図書館

副学長は筑波大学附属図書館の魅力として、あらゆる本に簡単にアクセスできる点を挙げる。他大学では研究室や資料



筑波大学附属図書館長 池田潤副学長

室等で専門的な研究資料が独自管理され、学生の自由な利用が制限されているところもあるそう。しかし、筑波大学附属図書館では学生はほぼ全ての資料を自由に利用できる。副学長は「全てのあらゆる本が自由に手に取れるというのは実はすごいこと。筑波大生はこれに気づいていないのではないかと話す。

そして、主に中央図書館の1階と中2階に所蔵されている東京師範学校時代より150年にわたって集めてきた図書資料も魅力の一つだそう。1階の貴重書展示室では、狩野山雪によって描かれた儒者の肖像画『歴聖大儒像』のような貴重書が展示されることがあるので、積極的に足を運んで欲しいとのことだ。

課題と展望

現在抱える課題として、蔵書数の増加によるスペース不足を挙げる。この解消のために、電子書籍の導入を進めていくそう。このようなデジタル化を進めることで「場所にとらわれずに蔵書にアクセスできるような『どこでも図書館』が実現できれば」と副学長は語る。

また、副学長は「くつろぐことのできるサードプレイスとして図書館を自分の居場所にして欲しい」と語る。実際に足を運んで実物の本に触れ意外な発見を得るなど、自宅や教室では思いつかないようなことをひらめく場所として図書館を活用して欲しいとのことだ。

おわりに

2023年には筑波大学は開学50周年を迎える。これに合わせ図書館でも50年にふさわしい企画展を行う予定だという。そして、情勢に鑑みつつも新型コロナウイルス感染症によって制限されていたサービスの再開に向けて検討を進めているそう。普段は図書館を利用しない学生も、魅力が詰まった図書館をぜひ訪れてみてはいかがだろうか。

(大谷)

附属図書館の魅力と利用のコツ

「図書館は居場所になれる」と筑波大学附属図書館で学内バイトをしている刑部朱音さん(人文社会科学研究群人文学位プログラム博士前期課程2年)は言う。本を読んだり、勉強したり、読書を通じて会話のタネを作れたりもする。図書館ではその他にも雑誌の閲覧や資料調査などさまざまなことが出来て、誰でも入りやすい優しい雰囲気がある。万人の居場所になれることが図書館の魅力の一つと刑部さんは語る。

「筑波大学附属図書館を利用するコツはホームページを活用することだ」と刑

部さんは言う。ホームページ内にある「Tulips」の検索を使いこなすことは学生の研究活動にとって非常に大きな力になるだろう。また、電子ジャーナルやデータベースも筑波大学の学生なら無償で使うことができる大変魅力的だという。

本の返却期限を過ぎてしまう学生が多いと刑部さんは笑って話す。そのような学生たち向けのサービスがあるという。刑部さんは、「図書館のメールサービスに登録すると返却日の2日前にメールが来て知らせてくれる。ぜひ活用してほしい」と勧めた。

(川島)



人文学学位プログラム博士前期課程2年 刑部朱音さん

中央図書館

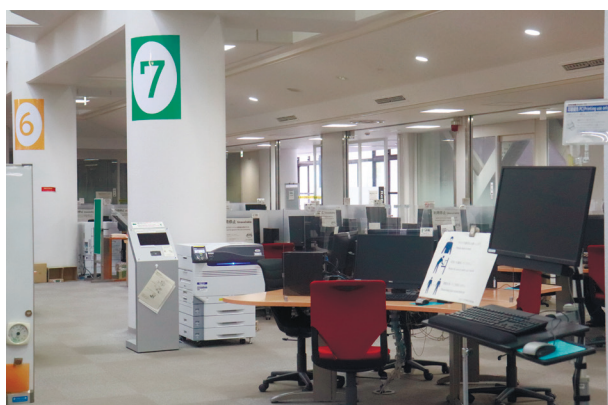
第一エリアに位置する、筑波大学でも規模の大きい図書館。総合図書館であり、さまざまな学問分野に触れることができる。中央図書館では、全面開架式という筑波大学附属図書館の特徴を存分に感じられる。フロア一面に立ち並ぶ書架は圧巻だ。新館1階にある貴重書展示室では、中央図書館が所蔵する貴重書が紹介されており、教員と共同で特別展が行われることもある。本館2階のラーニン

グ・スクエアは、全学計算機端末や机が多く配置されており、会話OKなエリアだ。新型コロナウイルス感染症の感染拡大以前は勉強会やセミナーなどのイベントが行われ、にぎやかな空間だったという。学生サポートデスクでは、ラーニング・アドバイザーとして働く学生スタッフに学習相談を行うことができるため、ぜひ利用してみよう。

中央図書館5階の窓から外を見たところがあるだろうか。視界が開け、綺麗な景色が見える。また中央図書館は想像以上に広く、全体を歩いて回ろうとすると時間が掛かる。一度館内を散策してみると、お気に入りの場所や自分だけの使い方が見つかるかもしれない。



肩を並べる附属図書館キャラクター「がまじゃんぱー」(左)と
附属図書館長池田潤副学長(右)



PCや印刷機等を利用できる(中央図書館)

体育・芸術 図書館

建物のドーム部分が目印の、体育・芸術エリアに位置する図書館。通称、**体芸図書館**。体育・芸術に関する資料が豊富に所蔵されており、展示機能にも注力している。1964年の東京オリンピックに関する資料が豊富で、東京2020オリンピックのポスター展示も



体育・芸術図書館の外観

行われている(開催期間12月16日まで)。新聞コーナーにはスポーツ紙も置いてあり、これは体芸図書館独自のサービスだ。また、芸術系が管理している筑波大学アート・コレクションの展示もあり、見どころ満載だ。閲覧スペースは1カ所にまとめて設けられており、天井が高い開放的な空間となっている。2016年にオープンしたラウンジのBunkaは、壁面に芸術系の学生によるマスキングアートが施されている。体育・芸術分野を専門とする学生はもちろん、それ以外の学生も、サークルや趣味に関する資料を求めて、足を踏み入れてみてはいかがだろうか。



東京五輪の関連資料(体育・芸術図書館)

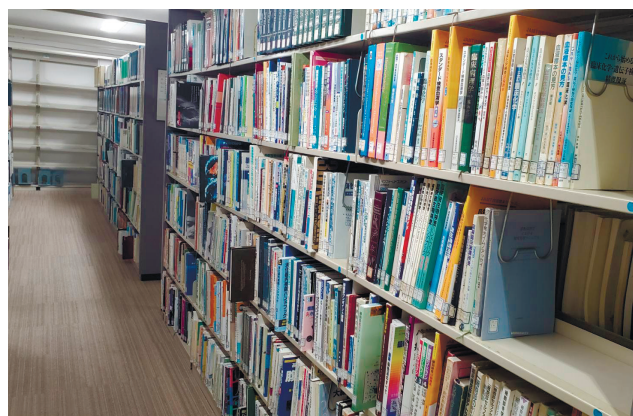
医学図書館

医学エリアに位置する図書館。
2014年に耐震改修を行い、リニューアルオープンした。医学、看護学、医療科学系の図書や雑誌が膨大に所蔵されている。学生や教員だけでなく、筑波大学附属病院の職員も利用しており、新型コロナウイルス感染症感染拡大以前は、他



二階から見た全体の様子（医学図書館）

の専門学校の学生や病院関係者の利用も多かった。医学図書館は、休日や、他の館では長期休業期間で開館時間を短縮する期間（9月や2月）にも、基本的に22時まで開館している。新型コロナウイルス感染症の影響による臨時休館後も、他の館と比較して利用者の減少率が小さかったという。医学図書館は他の館と雰囲気や異なり緊張感がある、といった声を聞くことがある。気分を変えたい、遅い時間まで図書館にいたい、そう思ったときは医学図書館に足を延ばしてみるのはどうだろう。



医学、看護学、医療科学に関する本が数多くある（医学図書館）

図書館情報学 図書館

春日エリアに位置する図書館。通称、としようとしよかん 図情図書館。元々、図書館情報大学の図書館であったため、建物全体ではなく一部が図書館になっている。図書館情報学に関する資料はもちろん、一般教養図書や英語多読本、児童書なども豊富に所蔵されていることが、図情図書館の特徴の



図書館に関する資料が並んでいる（図書館情報学図書館）

ひとつだ。入り口付近には図情教員著作コーナーやミニ展示が設置されている。また図情図書館にはKLC（春日ライニングコモンズ）が存在する。ライニングコモンズとは「学習するための共有スペース」であり、KLCは図書館利用者なら誰でも利用可能だ。チューター在室時には、主に授業に関する内容を質問することが出来る。図書館から少し離れた情報メディアユニオンのメディアミュージアムでは展示が行われている。常設展示に加え、教員による特別展示が行われることもある。こちらにもぜひ足を運んでみてほしい。

（菅原）

応用理工学類特集

応用理工学類では数学、物理学、化学、生物学などの自然科学を基礎とした、理学と工学を融合させた研究を行っている。応用物理主専攻、電子・量子工学主専攻、物性工学主専攻、物質・分子工学主専攻の四つの専攻が存在しており、それぞれ最先端の技術を学びながら実社会に役立てる方法を探求している。

生物学＋物理学

白木賢太郎教授（数理物質系）は「相分離生物学」を提唱する研究者である。相分離とは、水と油のように異なる溶液の分離状態が続くという物理学の現象のことだが、白木教授は生命現象の理解のために、このようなタンパク質溶液の性質が重要であることを見出した。

生命科学には今でも謎が多い。例えば、細胞内タンパク質は、酵素によって多くの連続反応が起きているが、試験管内でそれらの酵素を混ぜてもスムーズに反応しない。白木教授は、細胞内では酵素が相分離することで集合するため、混線せずに反応が行われていると語る。

この相分離に関連する研究は実生活でも活用されている。例えば、アルギニンタンパク質の凝集を阻害する効果がある。この効果を用いることで、卵白を凝固させずに加熱でき、同じ技術を使うと、バイオ医薬品の安定化や、熱で傷んだ毛髪の修



数理物質系
しらきけんたろう
白木賢太郎 教授

復までも可能になるという。実際に多くの企業と協力し、産学連携研究を行っているそうだ。

あえて雑多な

カリキュラム

応用理工学類は物理学や化学、生物学、数学と高学年まで学ぶ幅広いカリキュラムを設けており、世界でも珍しいと白木教授は話す。大学の低学年でじっくり腰を据えて広く学び、その後、自分の考えで専門を決めたいという学生が活躍しているという。

白木教授自身も物理学と生物学の横断的な研究の中で、相分離生物学の着想を得ており、応用理工学類の学際性を高く評価している。専門性を高めることも重要だが、幅広く科学の知識を吸収し、研究室に入ったあとで深く学ぶ。様々な分野の関連性から、新たな着想を得ることができるといふ。

（竜場）

応用理工学類の

学びと学生生活

応用理工学類の学生は多くの理科学類と同様に、主専攻の決定後、研究室に所属して卒業研究を行う。応用物理主専攻で超高速構造ダイナミクス研究室に所属する西森亮太さん（応用理工学類4年）に、応用理工学類での学びと学生生活について聞いた。

西森さんは高校時代から理系の勉強が得意で、材料系の研究に魅力を感じ、応用理工学類の受験を決めた。入学後には、線形代数の学修に苦労しながらも、数学や物理学、化学などを中心に、幅広く充実したカリキュラムで学んだという。

所属の研究室では、原子や分子に光を当てる超高速時間分解電子線解析法を用いて分子動画を撮影し、物質の変化をミクロなレベルで観測している。西森さんは物質にレーザー

を当てる装置の開発に携わっているが、研究室に所属するまで装置開発の経験や知識は全くなかった。新たな世界に飛び込んで用語の勉強から始め、周りについていくだけでも一苦労だ。それでも、「知らなかった道具を使って小さな部品から背丈よりも大きい装置を組み立てるのは新鮮で楽しい。優秀な人と毎日顔を合わせる環境も刺激的だ」と西森さんは語る。

一方で西森さんは4年生の4月までアーチェリー部で活動し、3年生の頃には主将として、新型コロナウイルス感染症流行の影響で停止していた練習の再開と、新入生歓迎活動に注力した。勉学とサークル活動に打ち込んだ大学生活を振り返り、応用理工に興味のある人にはぜひ勧めたい学類だと西森さんは話す。

（三好）



応用理工学類 4年
にしちりりょうた
西森亮太 さん

人との出会いが

刺激に

数ある応用理工学類の研究室の中から、今回は環境半導体・磁性体研究室の代表、末益崇教授（数理物質系）に取材した。

現在、末益研究室では主に四つの研究が行われている。電子がもつ電荷に加えて、スピンの自由度を利用するスピントロニクス。有害な元素を使わず、なおかつ車体など曲面に設置可能なほど超薄型の太陽電池を可能にする物質の探究。焼却炉や車の排熱などを利用し、温度差から発電する熱電池用の物質探索。ガラスやプラスチックのような原子が不規則に配列した物質（非晶質物質）の上に、原子が規則正しく並び結晶を配置する技術。

様々な研究を進める末益研究室だが、これらの研究テーマのいくつかは、人との出会いによって偶然生まれてきたという。末益教授は最初、顔認証などに用いられる半導体レーザーを目標とした研究をしていた。その中で用いていた鉄（Fe）とシリコン（Si）の化合物は、その比率を変えると、太陽光電池や磁石など、様々な用途に適した性質に変化できる特徴を持っている。そのことを同僚の教授から教えてもらい、新しい物質を作り出す研究を始めるきっかけになったそう。また、太陽光電池に関する研究は、他の大学からたまたま入学してきた大学院生に研究



数理物質系
末益崇教授

テーマとして与えたことがきっかけになったという。「研究のテーマには深く考えて始めたものもあれば、何かのきっかけから偶然始まったひよんなものもある」。様々な研究を同時に進めていることについて、末益教授は「一つのことを突き詰めるだけでは、知識の深さが一定のところで止まってしまう。大切なことは自分の知識の守備範囲を広げることと、総合的に知識を深めていくことだ」と語る。

応用理工学類の学士課程では、高校時代の化学や数学など基礎の学習を深めることから始める。専門的な科目は3年次から始めるため、1、2年次のうちは学習の中で大学らしさを感じられず、退屈に思つかもしれない。しかし、末益教授はこのような基礎的な知識が研究には不可欠だと語る。「これら基礎となる学習

はアスリートの体力づくりのようなものであり、自由な発想に基づく研究のための大切な土台となるため、ぜひ頑張ってください」。

末益教授にとって筑波大学の魅力は、様々な人との出会い、互いに影響し合える環境にあるという。応用理工学類の先生方で、ラウンジで昼食をとって御菓子を食べながら団らんしたり、大学近くの畑を借りてそれぞれ自由に作物を育てたり、築泳会と称して学内50m温水プールで他学類の先生方と一緒に泳いだり、そのように様々な人と関わりを持てるので、教授同士の関係はフランクで風通しが良い。だからこそ、研究で行き詰まったり、技術に関する悩み事があったりした時には、お互い相談して助け合える。そういった人と人との関係が、研究を進める原動力に変わるのだ。

（勝又）

応用理工学類C専

応用
物理主専攻電子・量子
工学主専攻物質・分子
工学主専攻

応用理工学類 1年
石倉馨さん

過去の経験から

石倉馨さん（応用理工学類1年）は、特異な人生経験と入試方法を経験して、応用理工学類に在籍している。彼は11歳より7年間でドイツで過ごし、その生活を通して応用理工学類を志す様々な契機に出会ったという。石倉さんの父親はエンジニアであり、その仕事の関係で、石倉さんとともにドイツのシュツットガルトに移り住んだそう。工業が発展している街で、学校の社会科見学として工場や科学博物館を訪れることが多かったという。「この環境下で過ごす中で次第にモノづくりに関心を抱くようになった」と石倉さんは当時を回顧する。

大学進学を見据える時期になったとき、石倉さんは故郷である日本の役に立ちたいと、日本の大学で工学を専攻しようと決意したそう。実は筑波は第一志望校ではなかった」と苦笑しながら付け加えつつも、帰国子女としての入試の経験を語る。石倉さんは国際バカロレアの資格と自身の物理実験をまとめたレポートを用いて、本学の国際バカロレア入試を受験した。国際バカロレアとは世界共通の教育プログラムであり、この資格の所有者は日本の教育課程を修了した者と同等に大学入試を受験できる。物理実験のレポートについては、「落ちていたバナナの皮で足が滑ることに着目し、バナナの皮の水分量と滑り方の相関関係を調査した。あの時期はバナナを見ることすら苦痛だったが、本学の面接で教授が話題にしてくださいだったので結果的に良い経験だった」と話した。

また、応用理工学類の魅力としてその学際性を第一に挙げた石倉さんは、「理工学群の他の学類でできないことは全て応用理工学類で専攻できる」と話す。石倉さん自身も学群1年生向けの研究室体験配属プログラムを通して、応用理工学類で出来ることの幅広さに驚愕したという。金属材料関連を主専攻にしたいと熱望する彼は、「希望の研究室に入るために、まずは日々の授業や課題に全力で取り組みたい」と、まっすぐな瞳で語った。

（高橋）

2022年度 全代会

【対談 全代会議長×副議長】

1年を

見据えて

議長団の 活動について

議長団の活動はいかがですか？

河野

もっと目が回って忙しくなると感じているのですが、意外と上手に回っていると感じています。本会議の進行、週一回学生生活支援室長と行なっているランチミーティングなど、余裕を持って通常の活動に取り組むことができています。

山岸

私もまだ忙しさをコントロールできていない状態だと感じています。しかし本会議の議題が例年よりも多いのでその準備が大変だと感じるときもあります。

森

通常業務は概ね予定通りに進んでいますよね。加えて私は、初の試みとして第一回全代会交流会を企画し、

森

いる全代会交流会と絡めた施策も検討中です。また各委員会から、今年の全代会構成員の1年生はよく働いてくれていると聞きます。これは1年生で副議長を務めることになった森さんももちろんそうです。自由な活動を求めて全代会に入ってきた1年生が多いので、自分のやりたいことをのびのびとやらせてあげられるような環境づくりに努めていきたいです。そう言ってもらえると嬉しいですね。のびのびと活動するためには、業務のスリム化だけでなく、全代会構成員が組織全体に対する意見や要望があるときに、それを伝えられる場が必要だと思っています。その課題を解決するために、Microsoft Teamsの全代会チームの中に目安箱のチャネルを作成し、そこに寄せられた要望にできるだけ対応できるように体制をとっていきたくて考えています。

今後の全代会の 展望について



ZOOM UP!

森 望 社会学類 1年

なぜ全代会の副議長に
立候補したのですか？

現副議長で同学類の先輩でもある山岸史和さん（社会学類2年）に誘われたのが一番のきっかけだと思っています。誘われた当時は「なぜ僕が誘われたのかな？」と疑問もありました。ですが、話を聞くうちに、1年生であるために至らない点があるとしても、自分が加わることが円滑な全代会の運営の一助になるのではないかと考え、立候補しました。

あなたにとって筑波大生は
どのような存在ですか？

多様性に富んだ存在であると感じますね。ほぼ単一キャンパスということもあって、学群の枠組みを超えた交流が盛んな印象です。特に、文系の学生が理系の話に興味を示していたり、

逆に理系の学生が歴史の話などに加わっていたりする様子を見かけた時は筑波大生のバラエティーの豊かさを強く感じます。
来年度の議長に立候補
されるのでしょうか？

立候補するつもりです。そのためにも、今年度は副議長という役職を存分に活用して座長団同士の交流の促進や全代会の抱えている問題点の発見などに努めたいと思います。また、全代会がこれから行なっていくことの中には、創設151年筑波大学開学50周年記念に向けた行事の準備やクラス代表者会議のシステムの再構築など、1年以上の期間が必要となるものもあります。この点を踏まえて、今年度は来年度を見据えて各所へのコネクション構築も行っていきたいです。

7月に実施しました。多くの構成委員が興味を持って参加してくれたため、活発な意見交換をすることができました。

河野 全代会交流会、よかったですね！

森 全代会の未来など、真面目な議題にすることも考えたのですが、今回は親睦を深めることを目的に、雑談などの楽しい会話をしました。その方が全代会構成員の今後の活動のモチベーションになりプラスに作用すると思ったからです。具体的には、全代会以外ではどのような取り組みをしているのか、なぜその学類を選んだのか、卒業後の進路はどうするかなどの会話を中心にしました。参加してくれたみなさんにとっても充実した時間になったようで、企画して本当に良かったと思います。

今後の活動の見通しを聞かせてください

河野 前年度までの行われてきた業務を確実に遂行することで、学生の生活に貢献することに注力したいと考えており、議長団としての役割をしっかり果たしていきたいです。

山岸 そうですね、業務を増やすことではなく、スリム化の方を進めたいと考えています。そうすることで構成員の負担を減らしつつ、やりたいことに注力できる環境を整えていきたいです。具体的には、教室申請のオンライン化を進めます。これにより、全代会はもちろんサークルなどの学生団体の教室申請への負担軽減にも繋がると思います。

森 私は全代会交流会を第二回、第三回と継続させていきたいと考えています。そして全代会の中でできた友人関係を続けていき、来年度以降も多くの方に全代会に関わっていただきたいと思っています。

山岸 私は、全代会本会議の出席率などを見て、全代会への活動に積極的に参加してくれる学類とそうでない学類との差があることが少し気になっています。これは各学類等の座長団の選出方法や全代会の広報にも問題があるかと思うので、来年度に向けて対策を講じていきたいと考えています。

活動する中で見えてきた実態はありますか？

河野 議長になっても、全代会の内部を全て把握するのは難しいと感じています。その課題を解決するために、各委員会のメンバーと対話し、密な情報共有を可能にする機会を設けたいと考えています。森さんが運営して

今後の活動の展望を教えてください

河野 大学に対する学生の声は集まっている印象がありますが、その声が必ず要望通りに実現できるかという点に難しいと思います。それを解決することが今後の大きな課題であると思っています。森くんはどう思いますか？

森 確かに、実現性は重要なポイントですね。私はそれ以前のアンケート周知などで、3年生以上への伝達が円滑に行っていないところにも課題があると思います。もっとさまざまな人からフィードバックがもらえるような体制作りも必要ですね。

山岸 私もそう思います。多様な意見を集約し、的確に要望を伝えることで、実現性を高めることができるのではないのでしょうか。

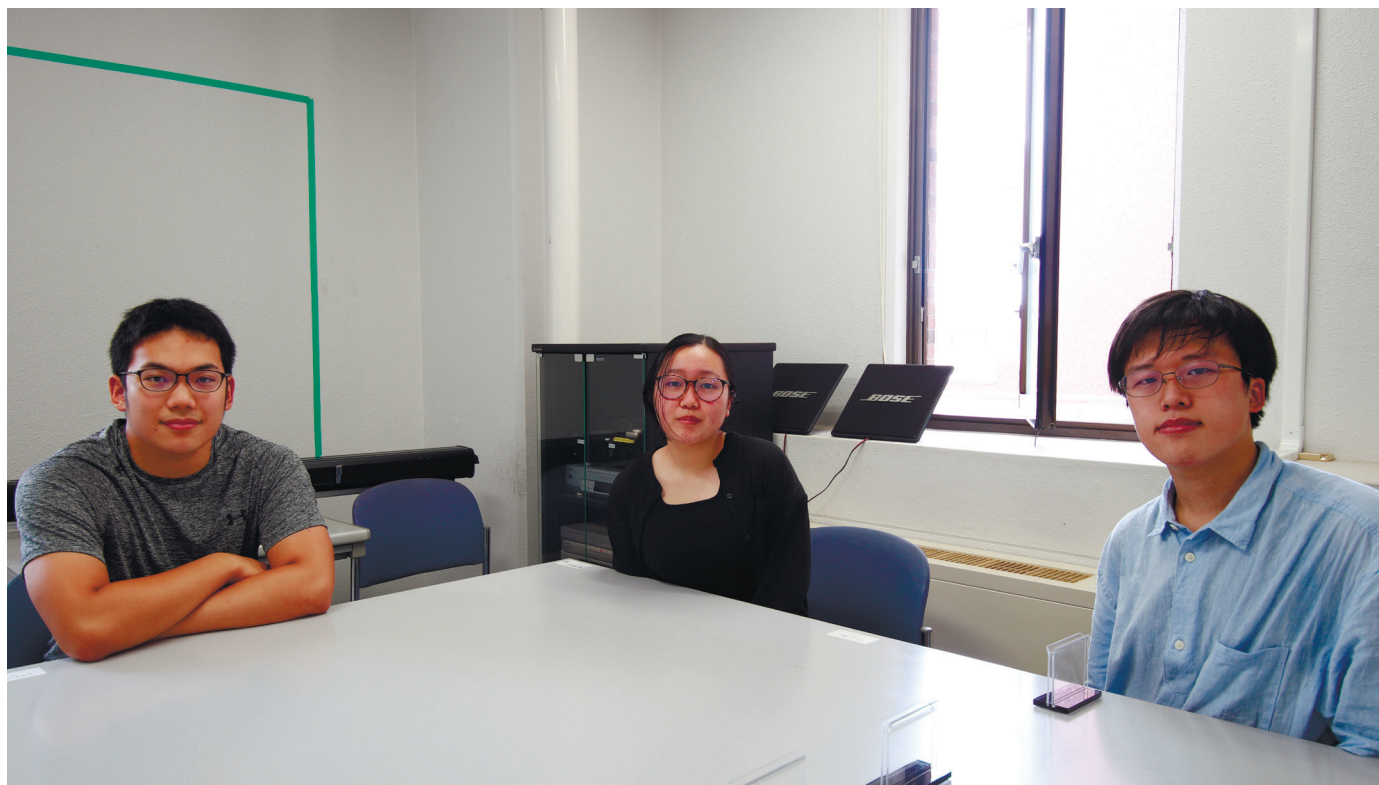
河野 そうですね。より多くの声を大学に届けられる全代会にしたいです。

今年度は国際化にも力を入れていると伺っています

河野 はい。今後大学側とも連携をしつつ特別委員会を中心に対応していきたいと考えています。留学生と気軽にコミュニケーションが取れるような環境を作り、全代会が留学生と大学をつなげるパイプのような存在になれるよう努めます。例えば、秋に入学した留学生が次の年の春に部活やサークルなどに加入するためのサポート体制の構築などが必要となります。そして、最終的には日本人学生と留学生とのギャップをなくしていきたいです。

最後に議長から一言よろしいでしょうか

河野 全代会としての国際化への対応、広報の強化など、今年度から来年度にかけて全代会は多くの仕事がありその役割を担わなければなりません。また、来年度は創基151年、筑波大学開学50年の節目の年で、全代会もそれに合わせた企画の準備実施に取り組めます。それを成し遂げるためには一人でも多くの全代会構成員の力が必要です。来年度以降も全代会の力となってもらえるような人材を確保し、持続可能な組織にすることを目指しています。また同時に、活動に楽しさを見出せるような組織へと成長していきたいです。



山岸史和（やまぎしふみかず）

社会・国際学群社会学類2年。
令和4年度全代会副議長。
業務のスリム化を目標に掲げている。



河野美羽（かわのみう）

人文・文化学群人文学類2年。
令和4年度全代会議長。2代続いて
女性が全代会議長に就任。
構成員が活動しやすい環境作りを目指す。



森望（もりのぞむ）

社会・国際学群社会学類1年。
令和4年度全代会副議長。
1年生ながら抜擢。
彼が作る全代会の将来に期待だ。

全代会活動報告

全代会研修会

日時…令和4年5月5日(木) 13時
場所…(対面) 5C216

(オンライン) Microsoft Teams

出席…全代会構成員、教職員等、学園祭実行委員会、スポーツ・デー学生委員会、文化系サークル連合会、芸術系サークル連合会

実施内容

令和4年度全代会座長団に向けて、研修会が行われた。

第一部では、始めに全代会議長と加賀信広^{かがのぶひろ}学生生活支援室長が挨拶を行った。続いて学生組織の代表者と学生生活課職員から、組織の概要及び全代会との関係について説明がなされた。また、全代会代表者と各委員会委員長から、全代会及び委員会の説明が行われた。

第二部では、全代会室の利用方法や、全代会の業務における情報リテラシーとMicrosoft Teamsの利用方法について講習が行われた。

第三部では、本会議を想定した模擬会議が実施された。模擬議題『一の矢宿舎東側の学内ループにおける歩道修繕の要望』が

第一回本会議

日時…令和4年5月11日(水) 18時30分
場所…(対面) 3A204

(オンライン) Microsoft Teams

出席…出席61 遅刻3 早退1

実施内容

第一回本会議では、議長として河野美羽^{かわのみう}(人文学類2年)が立候補し、信任投票の結果、選出された。副議長選挙では山岸史和^{やまぎし かみ}(社会学類2年)、森望^{もりのぞむ}(社会学類1年)が立候補した。信任投票の結果、山岸は選出されたが、森の選出は保留された。

議長選挙

【立候補者】

人文学類2年

河野美羽

【投票結果】(採決時の出席者は64名)

信任 58

不信任 1

保留 4

無効票 1

全代会構成員の過半数(40票以上)の承認

を得たため、河野が議長に選出された。

副議長選挙

【立候補者】

社会学類2年

山岸史和

【投票結果】(採決時の出席者は64名)

信任 53

不信任 2

保留 7

無効票 2

全代会構成員の過半数(40票以上)の承認を得たため、山岸が副議長に選出された。

【立候補者】

社会学類1年

森望

【投票結果】(採決時の出席者は64名)

信任 37

不信任 13

保留 11

無効票 3

全代会構成員の過半数(40票以上)の承認を得ることができなかったため、森の選出は保留になった。しかし、不信任が過半数には達しなかったため、今年度の議長団に再び立候補することができる。

第二回本会議

日時…令和4年5月18日(水) 18時30分

場所…(対面) 3A204

(オンライン) Microsoft Teams

出席…54(うち19名オンライン)

実施内容

第二回本会議では、第一回本会議において選出が留保された副議長1名の選挙を行った。当該役職については森望(社会学類1年)が再度立候補し、信任投票の結果、選出された。

副議長選挙(選出定数1)

【立候補者】

社会学類1年

森望

【投票結果】(有効投票数54票)

信任 44

不信任 2

保留 6

無効票 2

全代会構成員の過半数(40票以上)の承認を得たため、森が副議長に選出された。

学長と全代会構成員

との懇談会

日時…令和4年6月9日(木) 18時30分

場所…第一エリア学食

出席…学長、副学長、教職員等、全代会構成員、学園祭実行委員会、スポーツ・デー学生委員会、

実施内容

学長と全代会構成員との懇談会（以下、学長懇）が実施された。学長懇は全代会構成員が大学生活などについて、学長に意見や要望を伝えることができる貴重な場である。新型コロナウイルス感染症の影響により、昨年度は規模を縮小して実施したが、今年度は感染防止対策を十分に講じた上でコロナ禍以前と同規模の参加者が集まった。

学長懇では、加賀信広学生生活支援室長の司会のもと、永田恭介学長の挨拶で始まった。続いて、河野美羽全代会議長（人文学類2年）及び各委員会委員長から今年度の活動方針等について報告を行った。全代会をはじめとするサークルなどの学生団体の教室申請への負担軽減のために教室申請のオンライン化を進めていくことや全代会の認知度向上のために広報活動に注力していくこと、これまで以上に委員会同士の連携を強化していくことが報告された。

全代会からの報告の後には、学長・副学長等から、チューター制度、創基151年開学50周年記念企画などについての話題提供があり、それらに関して学生と教職員が活発に意見交換を行った。

〇制作者より

こんにちは、ずっと前（1年前）から制作部長の佐藤です。以後お見知りおきをと言いたいところですが今号が制作部長としての最後のお仕事となります。

今まで実はいろんなところで制作させていただきました。全代会にまつわるものが実は私が作り出したことも結構あって、私としてはいい経験になったと思っています。今号で制作部長としての仕事は終わりになりますが、今後の制作に期待です。

（佐藤陽亮）

〇編集後記

皆様ごきげんよう。早いもので、今号で私がCampusの編集長を務める最後の号となります。思い返せばここまで色々なことがありましたが、積もる話は私がどこかの週刊誌に載るような男になったときにお話ししますね。

さて、本誌についてですが数年前に比べ、読者の皆様がより目で楽しめるようなものになったのではないかと思います。今後とも全代会が皆様にとって身近な存在になれるよう、さらなる飛躍に寄与したい所存でございます。

最後にはなりますが、皆様体調にはお気をつけて。また世界のどこかで会いしましょう。ではでは。

（佐藤翔哉）



全代会の広報誌
Oct. 2022
2022年10月1日発行

BACK NUMBER

編集長	佐藤翔哉
発行人	江波戸憧音
表紙デザイン	勝又玲 佐藤陽亮
編集委員	太田なみゑ 松本琉那
	三好真生 佐藤翔哉
	佐藤陽亮 菟場広翔
	石原悠翔 菅原由乃
	宮西眞杏 小山杏奈
	熊谷奈々恵 片岡真紘
	江波戸憧音 大谷美琴
	勝又玲 松本英愛
	高田梨々子 水野舞優
	佐藤凌 菊地康介
	川島淳一郎 高橋愛果
	篠崎健太

発行 全学学類・専門学群・総合学域群
代表者会議 広報委員会
(zdk@stb.tsukuba.ac.jp)



Campus224 2021/10/1

- ・情報メディア創成学類特集
～現代社会に must な mast～
- ・学内行事特集
～祭りとその後-Rising after the Fall-～
- ・2021年度の全代会
- ・全代会活動報告



Campus225 2022/1/11

- ・教育学類特集
～教育の総本山～
- ・武道特集
～その道を究める～
- ・全代会活動報告



Campus226 2022/4/1

- ・総合学域群特集
～自分探しの旅路へ～
- ・全代会概論
～あなたの声、届けます～
- ・全代会活動報告